

結 論

主として抗雑の人体自然感作の存在並びに、それより得られる「ツ」の性状を知らんとして、動物及び人体に於ける実験を試み、以下の結果を得た。

1) 天竺鼠の3群に各々、抗雑、BCG、油包結核死菌を1.0mg宛同時に接種し毎週同一動物に抗雑「ツ」(旧「ツ」と全く同様に抗雑より製したもの)、BCG「ツ」、旧「ツ」を注射し、反応の推移を検したが、抗雑接種動物では、旧「ツ」BCG「ツ」反応は弱いが、抗雑「ツ」は甚だ強い。BCG及び、油包死菌に対しては、旧「ツ」BCG「ツ」は何れも同程度に反応するが、抗雑「ツ」も相当強く、明らかな反応を示す(その1、第1図)。

2) 家兎の2群に同様に抗雑、BCGを接種した成績は、天竺鼠と稍々異り、抗雑接種の場合に、抗雑「ツ」は勿論、旧「ツ」も著明な反応を示す。亦BCG「ツ」は両群

共に強反応を呈した。

このことから旧「ツ」反応は抗雑接種の際も、或る場合には反応し得ると考えられる(その1、第2図)。

3) 更に二つの学童集団(計1,396名)に、抗雑「ツ」と旧「ツ」の1000倍及び2000倍稀釈液を注射し、その反応を観察した。そして両集団に於て、図に示すような関係を認め、統計学的にも、この二つの反応は別個のものとはいえぬことを確めた。そしてこの反応が、他の学者のいうように非典型的であるという理由は見出されなかつた(その2、第1表 第2表 第1図 第2図)。

擲筆に臨み、御鞭撻を賜つた、岩手医大故三田学長、田沢教授、終始協力を惜しまなかつた同疫学研究室三田、橘爪、渡口、加藤の諸君、並びに発表に際し、御校閲、御助言を載いた結核予防会結核研究所、小川、続木、益子の諸博士に深い謝意を表する。

訂 正

結核第26巻第7号掲載の東村道雄氏原著「結核菌の發育環に関する研究」中、誤がありましたので下記の如く訂正致します。

誤

p. 316, 右段, 8行目, pH6.9, 7.1, 7.6 または 2.9
同 9行目, 30% Glycerinbouillon

正

pH 6.9, 7.1, 7.6 または 7.9
3 %Glycerinbouillon